

冬の到来間近

今月は今回中国がホスト国である APEC で始まった。石炭が主力産業である山西省でも工場に空気清浄機を設置するよう指示があったほか、この時期に合わせて同省で旅行のツアーが企画されるなどの影響があった。これは中国にとって重要な機会であるため中国政府が重視しているのは言うまでもないが、一般の中国人の間でも関心が高く、これを北京オリンピックと並ぶ重要な時と認識している人が少なくないのはここ太原でも感じられた。また期間中に行われた日中首脳会談についても、日本の首脳が中国に来たね、などと話の切り出しに言われたこともある。

この月になると太原では毛皮の帽子をかぶり防寒用の上着を着た人の姿を多く見かけるようになる。この地域で売られている防寒用の衣類は、見た目は薄いを着てみればかなり暖かいというものが多い。北方の地域だけに寒い気候に応じてうまく開発されているのがよく分かる。

この時期になってもまだ新たに山西大学に学びに来る留学生は絶えない。今年はこの大学で語学留学生として受け入れている人数は以前に比べ多いほうと聞いているが、国際交流の活性化などのために今月山西省の副省長と面会した知人によれば、今後さらに交流に力を入れていく可能性があるという。



日本語を学ぶ学生らとの交流

月末には、日本語を学んでいる学生を中心に構成された学生団体を訪れ、交流した。彼らは毎週休日集まり、独自の方法で日本について研究をしたりしている。日本語のレベルはかなり流暢に話せる人からほとんど知らない人まで様々だが、日中関係をはじめ国際社会

2014年11月号

に強く関心を持っている学生は多い。私は彼らと、日中の社会的な違いについてやそれぞれの認識などについて話し合った。



特色ある料理

さて、12月が近くなると中国でもクリスマスの雰囲気を感じられるようになる。中国語でクリスマスは日本語で言う「聖誕祭」に近い言い方だ。日本では冬が近くなればイルミネーションがそのシンボルとなるが、中国では町のいたるところが一年中輝いている場所が多い。地方都市の太原も例外ではなくその部分ではあまり変化はないが、ツリーや巨大な装飾品が飾られたり関連商品が売られはじめたりするようになる。私が暮らす施設には一年中クリスマスの装飾が外されていない箇所もある。来月は山西大学でのクリスマスの活動についても紹介したい。

杉浦聡太